

# Economic Indicators

発表日: 2023年10月31日(火)

## 景気動向指数(2023年9月)の予測

～足踏み状態が続く～

第一生命経済研究所

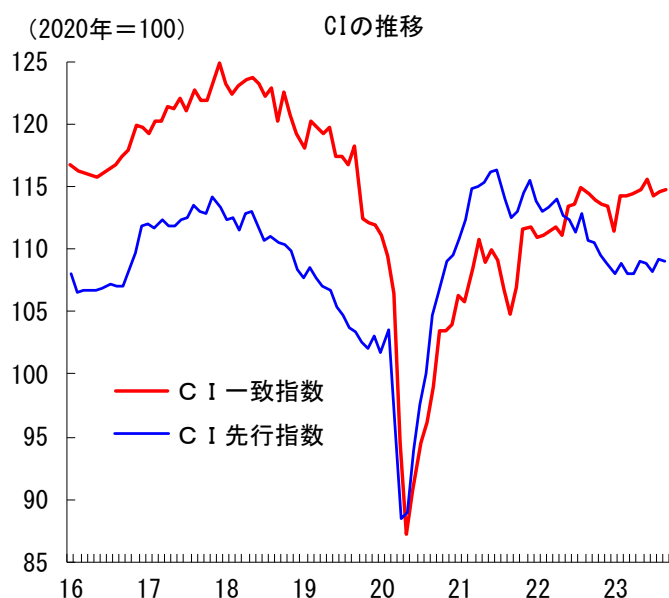
シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

### 横ばい圏での推移が続く

内閣府から11月8日に公表される2023年9月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+0.1ポイントと予想する。内訳では、投資財出荷指数や小売業販売額などがマイナス寄与の一方、輸出数量指数が押し上げ要因となり、C I全体では僅かにプラスとなるだろう。

C I一致指数は8月の前月差+0.4ポイントに続いての上昇が見込まれるが、6月の落ち込み分(▲1.4ポイント)を取り戻せていない。7-9月期平均で見ても4-6月期を0.4ポイント下回っており、4-6月期の上昇分(+0.4ポイント)を吐き出す形になった。昨年秋以降、均してみればほぼ横ばいでの足踏みが続いている状況に変化はみられない。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2023年9月は第一生命経済研究所による予測値

### 目先、足踏み状態が続く見込み

C I一致指数の基調判断は、6ヶ月連続で「改善」が予想される。C I一致指数の3ヶ月移動平均前月差は3ヶ月連続でマイナスが見込まれるが、「足踏み」への下方修正基準は満たさない。

先行きについては、C I一致指数は回復感に欠ける動きが続く可能性が高いとみている。C I一致指数と関連が深い鉱工業指数をみると、10月の製造工業生産予測指数で前月比+3.9%と高い伸びが見込まれているが、予測指数の上振れバイアスを除去した経済産業省による補正值は前月比+1.1%にとどまる。11月の予測指数が前月比でマイナスとなっていることも併せて考えると、均してみれば横ばい圏内とみて良いだろう。足元でIT関連財の在庫調整が進捗しているといった好材料はあるものの、海外経済の減速が先行き見込まれるなか、輸出は伸び悩むことが予想され、生産活動に力強さが出てくる展開は見込み難い。C I一致指数も足踏み状態が続く可能性が高いだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

